成願寺

季　報

107

平成27年12月23日
(2015年)

目　次

「先祖の心を仰ぐ」佐々昌樹……1
関東藤白鈴木会「総会・懇親会」……7
中野区立北原小学校社会科見学 感想文紹介……9
秋の観音詣りの報告……10
山内短信……12

発行　多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話　03-3372-2711
制作　地人館

平成二十七年 盂蘭盆会説教

先祖の心を仰ぐ

中野区萬昌院功運寺住職　佐々昌樹

萬昌院功運寺住職
佐々昌樹老師

みなさま、お暑うございます。私は上高田にございます萬昌院功運寺の住職をしております。成願寺様の中野たから幼稚園と同じように私どももまこと幼稚園がございまして、同じ中野区内ということで深くお付き合いをさせていただいております。また、先ほどこちらの坐禅会の指導にあたられた鈴木格禅老師の十七回忌が営まれ、随喜させていただきましたが、私も大学時代から先生には教えをいただいて、また私どもも坐禅の指導をお願いしておりました。そんな重なるご縁から、本日は参上いたしました。

私はまこと幼稚園では園長を務めておりまして、その関係で、他の園や小学校、保育科のある大学で非常勤講師として講義を受け持った経験がございます。三十数年間にわたり幼児教育に携わって強く感じますのは、パソコンやテレビゲームの出現による生活の変化です。そういったデジタルのものが普及する前は、実体験としてアナログ的に見聞きしていたことが、いまはゲームのなかで疑似体験してしまう。ご家庭でゲーム機を持たせますと、長い時間でも深く一人遊びをしてしまうそうです。そういったことの影響は、もうすでに出ているのかもしれませんが、この先の変化を心配しております。デジタルのものが脳へ与える影響を示した造語に「ゲーム脳」

という言葉があるそうですが、脳がどういう影響を受けて変化しているのか。世界中の人々が同じような状況にあり、結論はわかりませんが、大変危惧しているわけでございます。

ですが、私たちには普遍的なことがございます。それは、生命尊重と言いますが、ご先祖様からいただいたこの大切な命を大事にするということです。われわれ仏教徒は、みな仏の子であります。ご先祖様から命のバトンを受け取って、こうして生きている。幼稚園でこのお話をしますと、ご先祖様はなんとなくわかるようなのですが、どうして仏様の子なのかと子どもたちに聞かれます。

切れることのない命の伝達

私たちは誰もが父と母、つまり両親の元に生まれてきます。その二人の両親にも両親がいます。つまり祖父母にあたるわけですが、四人ということです。その四人の祖父母にも両親がいるわけで、曾祖父母が八人。またその両親で十六人、またその両親で三十二人になります。幼稚園の子どもたちは大きい数字はまだわかりませんのでちょっと難しいようですが、私どもでは以前近隣の子どもたちを集めて日曜学校という活動をしておりました。これは現在はお休みをしていまして、子どもたちに日曜の午前中に集まっておいでと言いましても、今の子はみな習い事やお出かけなどで忙しく、だんだんと集まらなくなりました。戦争直後の娯楽のない時代には、紙芝居や先代手製のブランコが喜ばれ、多い時には百人の子どもが毎週通い、父母の会があったほどでしたが、復興していくなかでその役目は終え、ですがまたいつか再開できればと思っております。

話が逸れましたが、その日曜学校に私も参加しまして、ご先祖様の話をよくいたしました。その時に大きな模造紙を用意して、まず自分の顔を書かせます。それにお父さんとお母さんの顔を書いてもらう。次におじいちゃん、おばあちゃんの顔。そのくらいまでは喜んで書いているのですが、小学校も高学年ぐらいになりますと数字がよくわかってきますので、ちょっと待てよ、これは大変だと予想がつくんですね。電卓で、二×二×二×二…とやりますとあっという間に数字が出てくるわけですが、絵として書いていくと、より具体的に、自分の命につながるまでにこんなにも多くのご先祖様がいたということに気がつくわけです。

十代遡るだけでも大変なご先祖様の人数です。では、二十六代遡るとどんな人数になるか。だいたい今の日本の人口と同じぐらいになります。一億三千万人ぐらい。こうしたお話が題材になった絵本が数年前に出版されました。沖縄を舞台に、おばあが孫に聞かせていくストーリーですが、あるページで畳んである紙を開きますと、紙面いっぱいに豆粒ほどに描かれた顔が埋め尽くしています。「いのちのまつり」という絵本ですので、機会があったらご覧いただければと思います。

二十六代と申しましたが、どのぐらい前のことかと言いますと、一世代を三十年で計算いたします。これは世界共通のようです。三十年×二十六世代で計算しますと約七百八十年になります。その間に一億三千万人というご先祖様の人数になる。それだけの命の伝達があって、いまこうして私たちは生きているということなのです。ちなみに七百八十年というのは鎌倉時代、源頼朝の頃です。では千年前は、二千年前はといったら、それこそ天文学的な人数になってくるわけですが、そのうちの一人でもいなければ、いまの私はいないのです。

地球が誕生して四十六億年だそうです。四十六億年の地球の歴史のどこかで私たちの先祖がうまれ、そこから命の伝達が始まり、今日まで一度も切れ目がなく続いている。では地球上の最初の命というのは、いったいどこから来たのでしょうか。

宇宙を構成せしめている力、働きを仏と考えていただけるとよいかと思います。宇宙の存在全てが仏の力と考えれば、その力によって地球上に命が宿り、今日まで途切れることなく続いている。そう考えますと、私たちはみな仏の子なのであります。

私には娘がおりまして、いま大学院で遺伝子の研究をしながら生物学を学んでおります。駿河湾などに標本採取をしに出かけることもございまして、話を聞きますと、千メートルぐらいの深海、海底火山から熱泉が噴出している近くで海水を採取するそうです。普通に考えますと、生き物がいるとは思えないですが、バクテリアが生きているんだそうです。

また、最近は活発な火山活動で心配されていますが、箱根の大湧谷のあのいつも噴煙をあげているようなところからもバクテリアが採取できる。さらに先日あるテレビ番組を観ておりましたら、アメリカの核廃棄物処理の様子を紹介していました。地下数百メートルの岩塩の層に核廃棄物を入れる。岩塩が

密封してくれるということなのですが、その岩塩の層には数億年前の海水が残っているんだそうです。その海水を抜き取って調べてみますと、なかにバクテリアが仮死状態でいて、ある程度海水の温度を上げると、動き始めて、やがて増え始める。その映像を観て、数億年前のバクテリアの生命力にびっくりし、命の不思議を改めて感じましたが、命といいますのは、そうやって人智を超えたところにある。

地球だけではなく、宇宙全部が大きな大きな命の存在であるということを考えますと、それを存在せしめている仏様は大変偉大で、想像することも難しい。ですからそれを知らしめるためにこの世に現れたのが、お釈迦様ということなのです。

私たちは生まれる時に仏様の子として真っ当に生きるべく誓いをもって生まれてきているのですが、生まれた瞬間にすっと白紙になってしまう。ですから、仏様の子であることに気がつかなければなりませんが、それには発心ということが必要になってくる。では、仏様の子であるということは、どう生きるべきか。それがお経のなかに説き示されているのです。しかし八万四千の法門と言いますように無数の教えがあって、それを全て読み理解するというのはとても無理なわけです。では、つまるところどうすれば良いのか。

知っているということと、身につくということ

そのことに思い当たった方が、唐の時代の白居易という人です。この方は大変優秀で、多くの漢詩を残し芸術的なことにも長けていたそうです。いつも鳥窠道林禅師という禅僧の元で禅の修行に励み、教えを求めていた。

唐の時代の知識層の人たちはかなり禅の修行に力を入れていたそうですが、白居易も大変知識があり、漢詩に優れ、芸術的センスも高いところに仏道修行もしていて、もしかしたらある種のうぬぼれがあったのかもしれません。後にそのことを恥じているわけですが、ある時、師である鳥窠道林禅師にこう問いかけました。「仏教にはたくさんの教えがありますが、つまるところ一言で言うと何なのですか」。

鳥窠道林禅師の鳥窠というのは鳥の巣という意味なんです。いつも坐禅を組んでいるのですが、一番禅師が気に入った場所が木の上であったそうです。ですので鳥の巣みたいなところで坐る禅師様だということで、あだ名がそのまま名前になった。

白居易が質問を投げかけた時も木の上に坐していまして、その様子を見た白居易が「そんな高いところにいたら危ない」と心配するんですね。そうしましたら禅師は「そちらの方が危ない」と応えるわけです。普通に考えましたら、高い木の上にいる禅師と地に足をつけている白居易、どちらが危ないかは明白なわけですから白居易は不思議に思って「なぜか」と問いを重ねるわけです。すると「仏の教えを知らず、心の定まらない者は、どこにいても危ない」と応えています。ここで「では仏の教えとは何なのか」と聞くわけです。

禅師は、「法句経」というお経に説かれている七仏通誡偈（しちぶつつうかいげ）という一文を言うんですね。それが、「諸悪莫作（しょあくまくさ）　衆善奉行（しゅうぜんぶぎょう）　自浄其意（じじょうごい）　是諸仏教（ぜしょぶっきょう）」です。訳しますと、もろもろの悪をなすことなかれ、もろもろの善を進んですべし、常に自らの心を浄めよ。これが仏の教えである。要は、悪いことをするな。よいことをしろ。そして心を常に落ち着かせていなさい。それが仏様の教えだというわけです。

それを聞いた白居易は、そんな簡単なことではないだろうと思うんですね。それで「そんなことは三歳の子どもでも知っている」と。つまり、三歳の子どもが知っているような応えが欲しいのではない。もっと崇高な言葉で言い表して欲しいのにどうしてそんな誰でも知っているようなことを言うんだと、そんなことだと思いますが、そうしましたら禅師は「三歳の童子知れりと言えども八十の老翁行なうこと難し」と言うのです。これは、三歳の子どもが知っていても、八十歳を過ぎて、世の中のいろいろなことがわかっているはずの翁でもそれが身についてできているか、ということです。つまり、知っていることと身についていることは違うということなのです。

これはすごい教えだと思います。私は幼児教育に携わっておりますので、子どもを指導していくうえで、ご父母や先生たちの考えもありますし、また学習指導要領でもたくさんのことが述べられて、いろいろな教育の視点というものがある。これらをどう分析して子どもたちに伝えていくのか。子どもたちに伝えたい一番大事なことはなんだろうかと突き詰めていくと、今申しましたような、頭でわかるだけではなく、悪いことはしない、良いことを進んでして、心をいつも落ち着けて、日々きちんと努力をする。これが基本的生活習慣。これを身につけるということなんですね。基本的生活習慣には、あいさつをする。

「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと言えるということ。いつも子どもたちに教えていますが、大人でもなかなか言えない人がいます。

朝起きて、夜に眠りつくまでの間、よく考えたら気が抜けないわけです。ですけど七仏通誡偈のみ教えが身に付いたら素晴らしいですね。

私たちの持つ仏性と三毒

その素晴らしいみ教えを、八十の翁がなかなか実践できない。これはなぜかと申しますと、私たち誰もが持つ三つの煩悩のせいなんですね。三毒といいますが、これのために瞬間瞬間に心が散り散りに動いてしまいます。

一つめは何でも欲しがる欲望の心。二つめはかっと腹を立てる怒りの心。三つめは今なすべきことがあるのにしない愚かな心。人は貪瞋癡（とんじんち）、貪り、怒り、愚かさに悩むんですね。幼稚園ではこのことを西遊記のお話で子どもたちに説明しています。かなり有名なお話ですが、玄奘三蔵法師（げんじょうさんぞう）が孫悟空（そんごくう）、猪八戒（ちょはっかい）、沙悟浄（さごじょう）の三人を供に仏道修行のため苦労して唐からインドを目指す話ですね。

孫悟空というのは、すぐにかーっとする怒りの固まりみたいな存在です。無謀にも仏様と問答をして負ける。それで頭に輪をつけられているんですね。孫悟空に怒りの心が生まれると輪が頭を締め付けて、怒りの心に気がつかせる。

猪八戒というのは、豚の妖怪ですね。何でも貪ってがつがつと食べる。いま食べたのに欲しい欲しいと食べてしまう。これを置き換えて考えてみますと、すでに持っているのに、あっちも素敵、あれも便利そうと次々に求めてしまう心。欲望というのには限りがないんですね。

沙悟浄は河童の妖怪です。いつもぼーっとしている。子どもたちに話す時には、「何かやることがある時に遊びやテレビに夢中になっているとお母さんになんて言われる？」と聞きます。「早くしなさい！」。この「早くしなさい」は最も親が子どもにいう一言であると同時に、子どもが親に言われたくない一番の言葉だそうです。ですけどそれは、「そう言われても仕方のない行動しかしていないということなんだ」と説明しています。

この貪瞋癡を体現した扱いにくい三人をコントロールして導いて行くのが三蔵法師なわけですね。三蔵法師は仏の心と教えを現しているわけです。

ですけどよくよく考えてみますと、この三毒は死ぬまで持っているものだとも言えるんですね。本能に直結しているんです。貪りの気持ちが無ければ食欲がなくなって、食べなければ生命を維持することができません。怒りの気持ちがなければ、もし何かに襲われたときに身を守ることができません。愚かさがなければ、いつまでも嫌なことでも忘れることができず悩み続けなければならない。

こう考えますと、三毒は生きていく上で必要でもあるわけです。ですけど、私たちは仏様の子でありますから、程よいところにしときなさいよ、ということなのです。私たちは生まれながらに浄らかな仏性と一緒に三毒を持っています。私たちの心に混在しているんですね。ですから浄らかな仏性で三毒をコントロールしていくことが、西遊記のお話が伝えたかったことであり、私たち仏教徒の生き方なのです。そうしたことに気がつき、意識して生活すると人生が変わってくると思うのです。

これからお盆の法要がございます。想像もつかないほどの多くのご先祖様からの命の伝達を思いながら、ご一緒におつとめいただければと思います。本日はありがとうございました。　　合掌

関東藤白鈴木会「総会・懇親会」

成願寺檀信徒　鈴木俊也

本年十月三日（土）、「第二回関東藤白鈴木会総会・懇親会」が麹町のホテルにて開催されました。関東藤白鈴木会は関東地区に在住の紀伊藤白を原点とする鈴木姓ゆかりの人たちの会員組織です。

午後十二時から総会が開かれ、「鈴木一族の歴史」（鈴木勲会長）では、鈴木氏の由来、藤白神社とのゆかり、系図、来歴、源氏との関係など鈴木氏にまつわる幅広い歴史概要のお話。続いて「藤白神社と鈴木屋敷の国の史跡入り」（平岡溥己講師）では、藤白神社と鈴木氏の関係、鈴木屋敷の老朽化の現況と史跡指定による保存再生について興味深いお話がありました。

鈴木屋敷とは、和歌山県海南市藤白の藤白神社内に現存する、藤白鈴木氏がかつて代々居住していた建物です。上皇や法皇の熊野御幸の際には御宿泊所として供されました。屋敷の敷地には義経弓掛松があり、源義経も熊野詣でをした際に何度か訪れているとされています。

午後一時三十分より、鈴木久元会長の開会挨拶のあと、懇親会が開会され、成願寺住職が成願寺開基であ

る鈴木九郎と熊野神社との深い関係をお話しされました。中でも淀橋（現西新宿と周辺）総鎮守で知られる熊野神社も鈴木九郎が創建し、明治時代に神仏分離令により成願寺から分離されたエピソードに、出席の皆さんは強い印象を持たれたようでした。

なお、藤白神社、鈴木屋敷、藤白坂等関連二十四ヶ処の国史跡指定が十月七日の官報に発表されました。

◇　◇　◇

十一月十四日（土）、関東藤白鈴木会会員による「鈴木縁（えにし）の地散策」が開催されました（参加者十三名）。

午後一時過ぎ、成願寺に集合、龍鳳閣（開山堂）と観音堂に参拝の後、本堂にて住職から中野長者伝説と成願寺界隈変遷のお話をうかがいました。

開山堂へ参拝

本堂でのお話

鈴木九郎が開拓した現在の中野坂上から西新宿一帯は、神田川小盆地で、蛇行した川は十二社池の水と併せ、現在の淀橋付近で水の流れが滞り、よどむから淀橋となったというお話や、現在は埋め立てられた十二社池の周囲は、台地の桜も見事で、最盛期には料亭・茶屋が並び、屋形船・釣り・花火などの行楽で人の多く集まる景勝地であったというお話は印象的でした。そして一般に流布する中野長者の猟奇譚に類似する長者伝説が、北陸東北など各地に多数あるというご指摘は、大変興味を覚えました。

鈴木九郎のお墓にお参りし、徒歩で十二社熊野神社に向かいました。当日は七五三の参拝も多く、新宿中央公園に隣接した境内は、清々しい空気で満ちていました。拝殿に飾られている提灯には、熊野三山のシンボル三本足の「八咫烏（やたがらす）」が描かれていました。

神社参拝後、淀橋に向かいました。高層ビル群の道すがら、かつての景勝地に思いを馳せ、新宿の景色の変わりようを、あらためて再認識させられました。

青梅街道を進むと神田川に架かる橋が淀橋です。大正時代の欄干が残り、歴史の一端をかいま見る思いがいたしました。看板にも中野長者の猟奇譚が記されていました。

鈴木縁の地の成願寺、十二社熊野神社は、大都会の喧噪から抜け出した素晴らしい空間でした。当日は雨模様にも関わらず、参加者全員が散策の全行程を歩ききったことを労い合い、解散となりました。　了

中野区立北原小学校　社会科見学　感想文紹介

去る六月十九日（金）、中野区立北原小学校三年生のみなさんが社会科見学「中野区内めぐり」の一環で来山しました。本堂で住職からのお話を聞いた後、防空壕を見学しました。感想文を抜粋して紹介します。

＊成願寺は、初めて行ったお寺だったけど、じゅうしょくさんが話をしてくれたので色々なことがわかりました。さいだんが大きいことに一番おどろきました。

＊初めて成願寺に行きました。ぼうくうごうがあって、入ってみると、中はとても寒かったです。

＊ぼうくうごうは、暗くて、寒くて、せまかったです。ぼうくうごうの中を歩くところには、小石がたくさんあって、そこにカエルがいたのに驚きました。

本堂でのお話

防空壕の見学

＊ぼうくうごうの中は、石だらけで、暗く、寒かったです。こわいと感じました。ここで生活していたのだと分かり、おどろきました。

＊ぼうくうごうは、ろう下は長いのに、部屋はせまいということにおどろきました。とても寒くて、思わずパーカーを着てしまうほどでした。

＊成願寺の中は、とても広かったです。中には、仏様がまつられていて、まつられている所は、いろいろなものでかざられていました。聞くと、「仏様もみんなと同じようにおしゃれなんだよ」と教えてくれました。仏様ってかっこいいんだなと思いました。

＊ぼうくうごうがあり、中野にくうしゅうがあったときに中野の人たちはぼうくうごうにひなんしたと聞いて、おどろきました。

＊じゅうしょくさんの話は、むずかしい話が多かったけど新しい発見があって勉強になりました。

＊じゅうしょくさんには、生活のことや中野区のはじまりのことを教えてもらい勉強になりました。

＊成願寺が、六百年前からあったことを知り、驚きました。

＊成願寺の中には、ぶつぞうがたくさんあったり、大小のたいこやかねがありました。めずらしいたいこやかねだったので、いんしょうにのこりました。

秋の観音詣り 恵那の旅の感想

成願寺檀信徒　細田 之久

恵那萬勝寺飯高観音と下呂温泉に泊まる観音詣りに行きました。十一月十日（火）、小雨降る中、成願寺に集合。観音堂にて旅の安全を全員で唱和祈禱してバスにて出発。バスにて岐阜県恵那市に紅葉始まった中央道を西へ。恵那インターで降りて萬勝寺・飯高観音詣りして、ご法話をいただきました（寺の歴史等のお話です）。

今夜の宿、飛騨の名湯下呂温泉「湯之島館」は登録有形文化財の指定を受けている建物で趣のある宿です。泉質はアルカリ性単純泉で入浴すると肌がツルツルになります。

堂々とした造りの湯之島館玄関

懐かしい土産物が並ぶ妻籠宿

干し柿の吊るされた格子（妻籠宿）

旅二日目、朝から良い天気です。晩秋、山の中なので少し涼しく、見送りも受けて、龍澤山禅昌寺観音堂にて参詣。祈禱後寺内見学し、雪舟作の八方睨みの大達磨絵、萬歳洞庭園は紅葉が綺麗でした。

寺院参詣も終わり、次に長野県南木曽町の中山道四十二番目の宿場町妻籠宿の古い町並の散策。昼食はもう少し先なのでおやつを食べバスへ戻りました。

駒ヶ根市にて昼食後、帰京。観音堂に参詣祈禱後解散帰宅。今回の観音詣りは遠くでしたが楽に感じました。ここ数回、泊まりの観音詣りの人数が少なくなってきました。皆さんも一度参加されてみては？参詣するお寺はもちろんのこと、食事は美味しく、宿も良いです。

合掌

観音詣りの報告

最初に訪れた岐阜県恵那市の萬勝寺は、寺伝によると千二百年前の平安初期に慈覚大師円仁を開祖として創建された東濃屈指の名刹で、ご本尊は十一面観音様。厄よけで名高い飯高観音は観音堂に祀られた千手観音様で慈覚大師の御作と伝えられています。江戸時代に臨済宗に改宗し、現在に至っているそうです。

初詣に三万人もの参拝者で賑わうという広大な境

内には、巨石に掘り出された釈迦三尊像、鶴を模した植木と亀を模した庭石もめでたい鶴と亀の庭、岩村城にあった茶室・園月など見所も満載。平成十三年に新築された観音堂にて、この旅で最初のお経を上げさせていただきました。

ご住職に本堂に導かれると、ご本尊十一面観音様にごあいさつの読経。恵那の名菓でちょうどこの季節の栗きんとんとお茶のおもてなしを受けながら、千二百年におよぶお寺の長い歴史等のお話をいただきました。

バスは旅の疲れを癒しに、兵庫の有馬温泉、群馬の草津温泉と並び日本三名泉と称される下呂温泉へ。宿は天皇家御用達としても知られる「湯之島館」で、昭和六年に五万坪を越す敷地に立てられた館は雅趣豊か、数寄屋造りでいて和洋折衷で昭和浪漫を感じます。地の食材をふんだんに使ったお料理と、熱すぎずぬるすぎず、それでいていつまでもポカポカと気持ちの良い温泉を楽しみました。

明くる日は宿からもほど近い禅昌寺へ。円通閣に祀られる観音様は平安時代の名僧恵心僧都が一刀三礼して彫られた御尊像で、後円融天皇（一三五九～一三九三）の皇后祈願の秘仏として知られ、安産の観音様として信仰を集めています。山門をくぐると見事な伽藍が立ち並び、紅葉も見頃。観音堂にてお経を上げさせていただきました。大書院に導かれると、係の方に丁寧な説明をいただきながら雪舟筆の八方睨みの大達磨絵や山岡鉄舟の書等拝観。名勝に指定されている庭園「萬歳洞」を見学しました。

帰り道のバスは寄り道をして中山道妻籠宿へ。一行は江戸時代にお殿様が参勤交代の際に立ち寄った本陣や脇本陣が再現された博物館、歴史的な町並みを散策し、東京への帰路に着きました。

了

観音堂前にて記念撮影
（萬勝寺）

本堂でお話を聞く一行
（萬勝寺）

観音堂前での読経（禅昌寺）

達磨絵を拝観（禅昌寺）

妻籠宿をしばし散策

山内短信

◎除夜の鐘・新年祈禱会（百七組予約受付・一撞き千円）

大晦日夜十一時半来会者一同で読経―撞き出し―

平成二十八年元旦零時半新年祈禱―年賀祝杯

＊除夜の鐘の前にお焚きあげをします。本年中の護符などをお持ち下さい。＊乾杯の干支杯はお持ち帰り下さい。＊干支にちなんだ絵馬をおわけします。絵馬に描かれる干支の絵は滋賀県東円寺住職藤木道明老師によるものです。

◎大般若祈禱会のお知らせ

平成二十八年一月十日（日）、午後一時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも（檀家以外の方も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

昨年の様子

◎年始めの会（初観音）のお知らせ

平成二十八年一月十八日（月）午後二時より、新年初の観音さまの縁日大祭（祈禱会）を行ないます。願文を添えてお申し込みください。

ご祈禱後はお汁粉で懇親会です。会費　千五百円

◎ジャイアンツとボール遊びをしよう！開催

去る九月十八日（金）、中野たから幼稚園に読売巨人軍よりコーチ二名が訪れ、年長園児四十四名と体操や野球遊びなどをして交流しました。

幼児期に身につけたい三十六の基本動作にも含まれる、「打つ」「投げる」の動作は初めての園児も多かったのですが、楽しく体験することができました。

最初に説明とご挨拶

的に狙いを定めて、投げる！

よーく球を狙って、打つ！

◎当寺境内に寄宿し、学校等に通う勤勉な方を受け付けます。朝の行事、作務（有給）・朝飯に参加。七時以後自由。僧俗・性別・国籍不問。部屋代一～三万円（月）。詳細は寺務所にお問い合わせ下さい。

＊メールアドレス「ogamu@nakanojouganji.jp」
＊成願寺ホームページは、検索サイト「Yahoo!」「Google」などから呼び出せます。「URL http://www.nakanojouganji.jp/」